2014年3月期決算説明会

2014年5月26日

バンドー化学株式会社

目次

Ⅰ．会社概要

Ⅱ．2014年3月期決算の概要

Ⅲ．2015年3月期業績予想

Ⅳ．中長期経営計画（BF-1）

Ⅴ．参考資料

Ⅰ. 会社概要

基本情報

社名	バンドー化学株式会社（証券コード：5195）
本社所在地	兵庫県神戸市中央区港島南町4-6-6
代表者	代表取締役社長　吉井　満隆
設立	1906年4月（明治39年4月）
資本金	10,951百万円（2014年3月31日現在）

連結売上構成（2014/3期）

ベルト事業の内訳（2014/3期）

事業概要（1）：ベルト事業

BANDO

コア技術

ゴムと樹脂の配合設計・分散・加工技術、伝動システム技術

合成ゴム、天然ゴム、塩ビを原材料に
様々な産業用ベルトを世界中に提供

主要製品（例）

平ベルト

Vベルト

Vリブドベルト

歯付きベルト

●オートテンショナ

●コンベヤベルト（ゴム製）

●軽搬送ベルト(樹脂製)

主要用途先・需要業界

- 自動車（4輪）（ガソリン車、ディーゼル車）
- 自動車（2輪）（スクーター）
- 産業用機械（射出成型機・工作機・送風機等）
- 農業用機械
- 資源開発 砕石・土砂採掘場
- 食品製造工場
- 発電所、製鉄所、コンクリート工場等
- 物流、ファクトリーオートメーション

ベルト事業①：自動車（4輪・2輪）分野

- 自動車（4輪）…補機駆動ベルトおよび補機駆動伝動システム製品が主力。
- 2輪車…CVT用ベルトが主力。
- 自動車メーカーへの直接納入では、伝動ベルトシステムのTier1メーカー。
- 海外市場における補修（交換部品）市場での展開に注力中。

自動車（4輪）

●バンドースムースカップラー

●自動車用補機駆動ベルト

●オートテンショナ

補機駆動ベルトと伝動システムの一体開発

自動車（2輪）

●スクーター用変速ベルト

●大型自動二輪、スクーター用

高効率な無段変速機（CVT）用ベルトの開発

ベルト事業②：産業用機械・農業用機械分野

- 簡素な構造で様々な機械に幅広く使用。
- 省エネに貢献するベルトや機械の高出力化に耐えられるベルトの開発。
- 世界14ヵ国21拠点を有する生産、販売ネットワークによる多様な販売網。

産業用機械

●HFD®システム（平成25年度省エネ大賞を受賞）

農業用機械

●逆曲げに対応する薄型Vベルト

OA機械

●カバーを開くと見えるベルト

ベルト事業③：搬送分野

■ 搬送物や用途にあわせ、ゴム製と樹脂製の搬送ベルトをフルラインで品揃え。

- ✓ ゴム製…コンベヤベルト(資源開発、砕石・土砂採掘の現場、石炭火力発電所等における効率的な搬送に貢献。)
- ✓ 樹脂製…軽搬送ベルト(食品製造向けのシリーズ展開、物流、ファクトリーオートメーション用途、その他特殊用途にも展開。)

ゴム製 コンベヤベルト

●急傾斜コンベヤベルト

（省スペースでの急傾斜搬送）

●パイプコンベヤベルト

（周辺環境に配慮した密閉搬送）

樹脂製 軽搬送ベルト

●軽搬送ベルト

事業概要(2):エラストマー製品事業

BANDO

コア技術

エラストマーと樹脂の配合設計・分散・加工技術

エラストマーと樹脂を原材料に
高機能、クリーンな製品を提供

主要製品(例)

クリーニングブレード

高機能ローラ

精密研磨材TOPX

バンドーグランメッセ

建材用フイルム

医療用フイルム

主要用途先・需要業界

- 電子写真出力機器(プリンター)
- オプトエレクトロニクス
- フイルム
  - 医療用
  - 装飾用(デジタルプリントメディア)
  - 工業用(テープ)
  - 衣料用(ネーム、ロゴ表示)
  - 建材用(フイルム)

業績推移・業績目標

営業利益100億円を目標に掲げ、中期経営計画を推進中

（“Breakthroughs for the future”1st stage）

Ⅱ.　2014年3月期決算の概要

■ 2014年3月期　ハイライト

BANDO

（百万円、%）

	2012/3	2013/3	2014/3		
	実績	実績	期初予想	実績	前年同期比
売　上　高	86,372	85,771	92,000	93,434	+8.9
営業利益	4,570	4,094	5,600	5,517	+34.8
経常利益	4,391	4,779	6,000	6,103	+27.7
当期純利益	1,440	2,510	4,000	4,280	+70.5

- 売上高は前年同期比+8.9%増、営業利益は同+34.8%の増益。
- 当期純利益も、前年同期比+70.5%の増益。（史上2番目、特別損失なし）
- 業績予想（2013.5.13発表）対比では、売上高101.6%、営業利益98.5%、当期純利益107.0%。

事業セグメント別業績

（百万円、%）

	2013/3	2014/3		
	実績	期初予想	実績	前年同期比
売上高	85,771	92,000	93,434	+8.9
ベルト事業	72,275	79,000	80,034	+10.7
エラストマー製品事業	12,380	11,900	12,437	+0.5
その他	1,493	1,500	2,230	+49.3
セグメント間消去	△377	△400	△1,268	―
営業利益	4,094	5,600	5,517	+34.8
ベルト事業	4,344		5,161	+18.8
エラストマー製品事業	△163		11	―
その他	73		187	+154.9
調整額	△159		157	―

（注）期初予想…2013年5月13日に公表した連結業績予想。

■ ベルト事業　業況

(単位：億円)

構成比率は変わらないが、販売量は拡大。

- ■ 自動車用伝動ベルトの売上高は、32.8億円の増加(9%増)
- ■ 一般産業用伝動ベルトの売上高は、18.9億円の増加(11%増)
- ■ 搬送ベルトの売上高は、14.9億円の増加(9%増)

(注)上記売上高はセグメント間取引消去後。

自動車用伝動ベルト製品

BANDO

製品別売上高

自動車用伝動ベルト製品 (+11%)	■ 補機駆動用伝動ベルトの販売が伸長 ■ スクーター用変速ベルトの販売が伸長 ■ 一方向クラッチ内蔵プーリの販売が伸長

(注)製品別売上高はセグメント間取引消去前。括弧の数値は前年同期比増減率。

所在地別売上高

欧米他 (+6%)	■ 緩やかに回復
中国 (+37%)	■ 自動車向補機駆動用伝動ベルトの販売伸長
アジア (+20%)	■ スクーター用変速ベルトの販売伸長 ■ インドのバンガロール工場の一貫生産の開始およびベトナム進出の寄与が大
日本 (△5%)	■ ハイブリッドカーの比率上昇に伴い、ベルトレスの車が増え、減少傾向

(注)所在地別売上高はセグメント間取引消去前。括弧の数値は前年同期比増減率。

一般産業用伝動ベルト製品

BANDO

製品別売上高

一般産業用伝動ベルト製品 (+11%)	■ 農業機械用伝動ベルトの販売が伸長

(注)製品別売上高はセグメント間取引消去前。括弧の数値は前年同期比増減率。

所在地別売上高

欧米他 (+23%)	■ 南米での販売増が貢献
中国 (+47%)	■ 農機用・精密機械用ベルトが伸長
アジア (+7%)	■ アジアの伸長は、農機用・精密機械用ベルトが貢献
日本 (+1%)	■ 国内の補修市場向けが伸長

(注)所在地別売上高はセグメント間取引消去前。括弧の数値は前年同期比増減率。

搬送ベルト

製品別売上高

搬送ベルト (+10%)	■ 製鉄所向けコンベヤベルト、石炭火力発電所向け急傾斜ベルトの販売が伸長 ■ 資源開発向けコンベヤベルトの販売が伸長 ■ 中国の加工拠点の強化により樹脂軽搬送ベルトの販売が伸長

(注)製品別売上高はセグメント間取引消去前。括弧の数値は前年同期比増減率。

所在地別売上高

海外 (+103%)	■ 中国の樹脂軽搬送ベルトの売上が伸長
日本 (+7%)	■ 急傾斜ベルト、樹脂軽搬送ベルトの販売が好調

(注)所在地別売上高はセグメント間取引消去前。括弧の数値は前年同期比増減率。

エラストマー製品事業

BANDO

製品別売上高

精密機能部品製品 (△2%)

- 高機能ローラの長寿命化製品の開発により、電子写真出力機器向けでは売上増となったが、クリーニングブレードの落ち込みをカバーしきれず
- バンコランベルトは、国内向けの売上が増加

(注)製品別売上高はセグメント間取引消去前。括弧の数値は前年同期比増減率。

機能フイルム製品 (+4%)

- 住宅着工の増加に伴い、建設資材用フイルムが伸長
- ラインナップの充実による装飾表示用フイルムの販売の伸長

(注)製品別売上高はセグメント間取引消去前。括弧の数値は前年同期比増減率。

■ 連結貸借対照表

当期純利益:+42.8億円
支払配当金:△8.5億円
その他有価証券評価差額金:+3.9億円
為替換算調整勘定:+32.3億円
退職給付に係る調整累計額:△10.5億円
少数株主持分変動:+0.5億円
↓
純資産が60.5億円増加
自己資本比率が52.0%から54.4%に増加

財務指標

%
ROE
※過去最高は12.3%(‘08/3)
10
9
8
7
6
5
4
3
2
1
0
3.2
8.5
3.7
6.2
9.4
‘10/3
‘11/3
‘12/3
‘13/3
‘14/3

自己資本比率
※過去最高
%
56
54
52
50
48
46
44
50.2
47.9
48.4
52.0
54.4
‘10/3
‘11/3
‘12/3
‘13/3
‘14/3

%
D/E レシオ
※過去最良
50
40
30
20
10
0
40.2
44.5
37.9
36.8
32.3
‘10/3
‘11/3
‘12/3
‘13/3
‘14/3

億円
純有利子負債
※過去最良
80
60
40
20
0
71
27
35
33
26
‘10/3
‘11/3
‘12/3
‘13/3
‘14/3

キャッシュフローの推移

Ⅲ.　2015年3月期業績予想

2015年3月期　業績予想

（百万円、%）

	2013/3 実績	2014/3 実績	2015/3 予想	前年同期比	
売　上　高	85,771	93,434	95,000	1,566	+1.7
営業利益	4,094	5,517	5,800	283	+5.1
経常利益	4,779	6,103	6,400	297	+4.8
当期純利益	2,510	4,280	4,300	20	+0.5

販売面

■ 国内の消費税増税に伴う自動車販売減などの減収要因や、タイの政情不安など不透明要素はあるものの中国やアジアおよび米州における自動車補修、2輪、農機、一般産業向け製品の販売拡大により増収を見込む。

利益面

■ ナフサ価格の上昇に伴う原材料費のアップやエネルギー費用の上昇、さらに物流費や人件費アップなどの減益要因はあるものの、中国・アジアの販売拡大や、全世界でのコストダウンにより増益を見込む。

為替

■ 想定レート・・・1USD＝100円、1EUR＝135円、1人民元＝17円

設備投資額と減価償却費の推移

株主還元

	'04/3	'05/3	'06/3	'07/3	'08/3	'09/3	'10/3	'11/3	'12/3	'13/3	'14/3	'15/3
連結EPS	33.4	38.2	35.2	39.3	52.7	△2.6	12.3	33.7	14.8	26.5	45.5	
配当性向	18.0%	18.3%	36.9%	25.4%	19.0%	―	48.7%	23.7%	53.9%	30.2%	22.0%	

Ⅳ. 中長期経営計画(BF-1)

BF-1 : Breakthroughs for the future 1st stage

BANDO

中長期経営計画“Breakthroughs for the future”
『未来への躍進』

目指す姿：グローバルで『際立つ』サプライヤー

- 事業領域はベルトおよび機能製品分野、事業展開はグローバル
- キラリと光る付加価値製品の提供、キーワードは「環境・省エネ・高機能」
- ゴム・エラストマー・樹脂の「コア技術」と「信頼の品質」を活用

Breakthroughs for the future
1st Stage（2013～2017年度）

- 現事業の進化と深化
- 研究開発と市場開拓の強化

Breakthroughs for the future
2nd Stage（2018～2022年度）

- 10年後のありたい姿の実現
- ベルトに次ぐ事業の確立

■ BF −1：5つの指針

グローバル市場戦略の進化 → 製品の進化 → ものづくりの進化 → 新事業の創出 → 経営品質の進化

グローバルで『際立つ』サプライヤーに向けて

■中国・アジアでの販売拡大

■コストダウンの強化

■現有製品の高付加価値化
■高収益製品へのポートフォリオの入れ替え

グローバル市場戦略の進化①

✓ 中国、アジアを中心に海外売上高が着実に伸長。

➡ 生産能力の増強、中国、アジアを中心とする成長市場での
ベルト事業のさらなる拡大。

グローバル市場戦略の進化②

2013年度の取り組み

- ✓ ベルト事業分野でアジア市場シェアNo.1を目指し、中国、タイ、インドネシアの生産能力を増強し、市場開拓を推進。

- ✓ インド、ベトナムに生産工場を設立。

インド　Bando (India) Pvt. Ltd.
Bangalore　New Plant

ベトナム　Bando Manufacturing (Vietnam) Co., Ltd.

製品の進化①

BANDO

環境・省エネ・高機能化をキーワードとした新製品の開発と「市場最適仕様」製品の開発

2013年度の取り組み

■ 高付加価値製品への転換

✓ 平成25年度 省エネ大賞受賞
伝動システム「HFD ® システム」（13年1月）

高い省エネルギー性能を訴求し、Vベルトの
代替をはじめ、さらなる普及を図ることにより
次代の主力製品に育てる。

✓ 光ファイバー仕上げ用シリカフイルム
精密研磨材「TOPX® S035」（14年3月）

業界最高水準の研磨速度、研磨精度、
耐久性を実現。光通信コネクタ製造での
品質の向上・加工時間の短縮に寄与。

製品の進化②

✓ 塗装代替「加飾成型品」
調査活動を実施。

塗装の代替としてのニーズが高っており、
フイルムを曲面に張り合わせる技術を
確立し、調査活動を推進。

✓ クリーニングシステム「BANDO MDEC ®」
量産販売に向けた活動を展開。

制御された静電気を用いたクリーニング
システムとして電子部品製造工程等への
サンプルワークを展開。

➡ 高付加価値製品へのポートフォリオの転換を推進。

製品の進化③

■「市場最適仕様」製品の開発

✓ 中国/アジアの技術センターの活用。

・技術サービスの強化による情報収集の推進。

・評価設備増強による現地ニーズに合った製品開発。

中国　中国技術センター

タイ　アジア技術センター

➡ **現地ニーズに合った「市場最適仕様」製品の開発を促進。**

ものづくりの進化

BANDO

2013年度の取り組み

■ コスト競争力の強化

✓ 革新製法に着手。

✓ 海外調達の推進、開発購買の推進。

2013年度 実績 73.5%	→	2017年度 目標 70%未満

➡ たゆまぬコストダウン活動により、原価率の低減を図る。

新事業の創出

2013年度の取り組み

■新事業の創出

当社コア技術（配合・分散・複合化）をベースとした研究開発の推進。

✓ 「室温焼成型銀ナノ粒子インク」の開発

室温で乾燥させるだけで、導電性が得られ
加熱することなく、電子回路の作製が可能。

✓ 「銀ナノ粒子接合材」の開発

金すずはんだの融点よりも低い250℃の
加熱で半導体素子を基板上に接合可能。

新事業の創出②

✓ 電子デバイスの低熱抵抗化に寄与する「放熱シート」の開発。

熱伝導性フィラーを垂直配向することで、高い熱伝導率を有し、さまざまな電子デバイスの低熱抵抗化に寄与。

✓ 「伸縮性ひずみセンサ」の開発。

曲面への追従性が高く、取り付けが容易なソフトセンサとして、工業分野・医療分野での販売を目指す。

➡ 今後、次代の柱となる新製品、新事業の創出に向けた研究開発に注力。

Ⅴ.　参考資料

長期経営ビジョン・中長期経営計画の全体像

■ “Breakthoughs for the future”の概要

バンドーグループは、100年以上に亘る事業活動で培ったゴム・エラストマー・樹脂の「コア技術」と「信頼の品質」を活かしながら、「10年後のありたい姿」を目指して、中長期経営計画“Breakthoughs for the future”を策定しました。

■ BF −1の5つの指針

創業100年超の歴史

BANDO

- 2012年
  - ■2月：海外拠点設立（ベトナム）
- 2011年
- 2010年
- 2009年
  - ■海外事業の拡大・拡充に力点（自動車メーカーのグローバル戦略に対して、日・米・欧・亜の世界四極での生産販売体制の確立）
- 2008年
- 2007年
  - 低温焼成銀ナノ粒子「FlowMetal®」を販売開始
- 2006年
  - ■6月：海外拠点設立（中国＜東莞 ＞）
- 2005年
  - 精密研磨剤「ナノクラスターダイヤリキッド」販売開始
- 2004年
- 2003年
  - ■1月・12月：海外拠点設立（トルコ・インド）
- 2002年
  - ■5月：海外拠点設立（中国＜上海＞）

1990年代

- ■海外拠点設立（中国＜香港、天津＞）
  1992年：電子写真装置用現像ローラ販売開始
  1995年：オートテンショナ販売開始

1980年代

- ■本格的海外進出開始（シンガポール・台湾・タイ・スペイン・インドネシア・マレーシア・韓国）
  1981年：歯付ベルトのニューラインアップ「スパートルクシンクロベルト」、
  Vリブドベルトのニューラインアップ「リブエース」販売開始
  1988年：世界初の乾式無段変速機(CVT)用ベルト(バンドーアバンス)開発

1970年代

- 1970年：東証1部上場
  1972年：日本初の軽搬送用ベルト(サンラインA)販売開始
  1975年：複写機用クリーニングブレードの本格生産開始
- ■ 1978年：初の海外現地法人を設立（米国、ドイツ）

1960年代

- 1961年：ポリウレタン製品販売開始
  1962年：大証2部上場
  1963年：スチールコードコンベヤベルト販売開始
- ■1969年：初の海外駐在員事務所設立（米国・ドイツ）

- 1959年
  - 歯付ベルト(シンクロベルト)販売開始
- 1932年
  - 日本初のVベルト販売開始
- 1921年
  - 日本初のコンベヤベルトを生産
- 1913年
  - ゴムベルトを生産
- 1906年
  - 4月　創業：日本発の木綿製ベルトを生産

当社製品100年の変遷

1900 → 1930 → 1950 → 1960 → 1970 → 1980 → 1990 → 2000～

伝動･運搬
ベルト技術

1906

1932

1921

エンジンフロントドライブシステム技術

フィルム･
シート技術

1950

1963

導電エラストマー技術

ポリウレタン技術

振動防止技術

1965

1975

樹脂成形技術

1987

ロボット技術

ナノ粒子創製･機能化コーティング製品